



給食の歴史を知ろう



「全国学校給食週間」について 期間：1月24日(土)～30日(金)

全国学校給食週間とは、毎日学校で食べている給食の歴史を振り返り、給食への関心を深める行事です。ご家庭でも、昔の給食の思い出や季節の行事食のことなど、食の話題について家族で話す機会を作りましょう。

給食の歴史をたどってみよう！



明治22年
【1889年】

日本の学校給食のはじまり



山形県鶴岡町(現・鶴岡市)の私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこれない子どもたちにお昼ご飯(おにぎり、塩ざけ、菜の漬物)を出したのが学校給食の始まりだといわれています。

昭和21年頃
【1946年頃】

戦後の給食再開



太平洋戦争で中止されていた給食は、戦後、アメリカの民間団体の助けて、昭和21年12月24日に東京・千葉・神奈川で再開しました。この日を記念し、12月24日が「学校給食感謝の日」となりましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日から30日が「全国学校給食週間」となりました。

昭和25年頃
【1950年頃】

完全給食の開始



アメリカから提供された小麦を使ったパンやミルク(脱脂粉乳)、おかずのそろった「完全給食」が、実施されるようになりました。

※脱脂粉乳は、牛乳の脂肪分を除いて乾燥させた粉末です。それをといたミルクは、とても飲みやすかったです。

昭和40年頃
【1965年頃】

脱脂粉乳から牛乳へ



日本の経済成長とともに、給食も変化しました。脱脂粉乳から牛乳へと切り替わり、ソフト麺なども登場するようになりました。おかずの量や質もよくなり、栄養価も向上しました。

昭和52年頃
【1977年頃】

米飯給食の導入



パンや麺が中心の給食から、ごはんを主食とする給食が広がりました。始めのうちは設備が整わず、月に数回程度の実施でしたが、子どもたちには大好評でした。カレーライスや豚汁など、ごはんにあうメニューも登場しました。

令和8年
【2026年】

現在の給食

食育基本法(2005年)にそって、栄養教諭・学校栄養職員が、主食・主菜・副菜がそろったバランスのよい献立を作成し、食文化を伝えていくとともに、地域と連携して食育に取り組むようになりました。今では栄養教諭・学校栄養職員が給食の時間や各教科等と関連した食育指導を行っています。

